

里山住宅博 in つくば 2019

「里山住宅博 in つくば」は「春風台ヒュッグガーデン」を舞台に、2019年6月から11月にかけて開催された、地域工務店による期間限定の住宅博覧会。2016年に神戸で開催された「里山住宅博 in 神戸」に続く第2弾。住宅博終了後、それぞれの建物は、住まい手に引き渡され、住み継がれる町となる。
(実施日時：2019年11月11日 参加者数30名)



みんなの庭 / コモンを持った町

■展示場ではない、ホンモノの町

里山住宅博の特徴は、「モデルハウスにそのまま暮らせる」こと。住宅博終了後それぞれの建物は、住まい手に引き渡され、住み継がれる町になる。建物の見学はもちろんのこと、町並み・周辺環境も含めて、じっくり見て、確かめられる展示場となっている。

里山住宅博の舞台である「春風台ヒュッグガーデン」は、景観協定により建物の高さや面積、外部の仕上げや、共有地に面する部分へ制限など、美しい景観を保つためのルールを定めている約3.1haの住宅団地。道路に面して、イーズメントと呼ぶ緑の小路が並び、隣地との間にブロック塀やアルミフェンスは設けないルール。

「ヒュッグ」とは人と人とのふれあいから生じる温かく居心地の良い雰囲気を示すデンマークの言葉。

□この町の住民になるには

- ①「住宅博エリアのモデルハウスを購入する」
- ②「建築条件付分譲地エリアの土地を購入して、出展工務店に建築を依頼する」

■春風台ヒュッグガーデン

解説：ランドデザイナー 小玉 祐一郎氏

□全体プランニング

つくば市の大部分は標高20～30メートルの関東ローム層に覆われた平坦な地形で、春風台は台地と低地を分けるちょうど境目に位置する。北に筑波山を望み、眼下に桜川が流れる展望に恵まれ



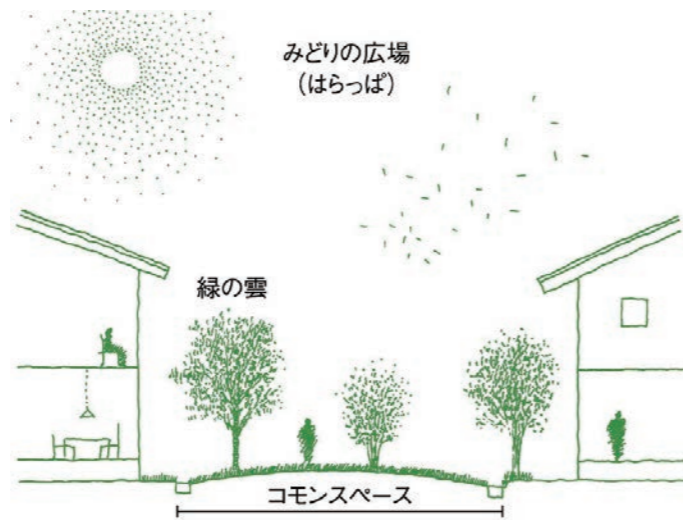
た立地を活かし、環境との共生と住まうことに価値を見出すことを念頭に周辺との繋がり方を模索し計画された。带状に続く斜面緑地は2haの保健保安林とつながり、ヒュッ

ゲガーデンを取り囲む。保健保安林に連なる土地として、時間をかけて緑を育てる場となるように、田瀬理夫氏のランドスケープ構想へと繋がった。

□里山コモンとイーズメント

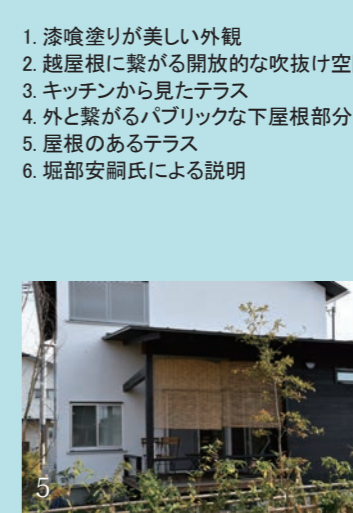
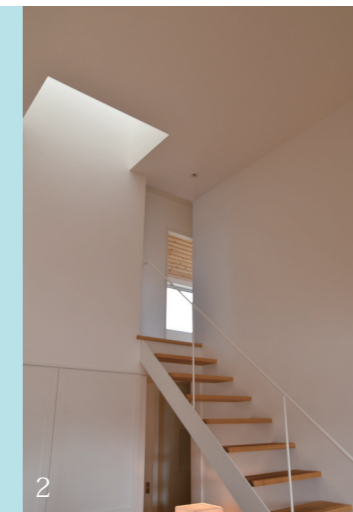
コモン（共有地）を取り入れた特徴的な区画割りは小玉氏の情熱があったからこそ受け入れられたもので、当初案では90区画確保できたところ、15区画相当がコモンに置き換わっている。

家と家の間に設けたコモンは住人みんなの庭であり散歩道として、敷地と道路の間にはイーズメントと呼ぶ緑地帯を設け、斜面緑地を含めて里山コモンを形成している。それぞれの区画の建物が内外との関係性を持つ重要な役割を果たしている。



□緑を維持するスキーム

将来にわたって樹木を育てるため3,000円/月の共益費を各世帯から徴収し、2,000円相当をプロの植木屋さんや近隣の農家などに樹木の管理を委託する費用に充当している。斜面緑地は保健保安林の指定を受けて固定資産税は免除され、万一転売された場合にも緑を担保することができる。



1. 漆喰塗りが美しい外観
2. 越屋根に繋がる開放的な吹抜け空間
3. キッチンから見たテラス
4. 外と繋がるパブリックな下屋根部分
5. 屋根のあるテラス
6. 堀部安嗣氏による説明

■つくばベーシックハウス

解説：設計者 堀部 安嗣氏

□設計主旨

夫婦の生活が1階だけで完結できるよう食堂・台所・広間・寝室・水廻りを1階に設けたコンパクトな住宅。2階建て部分には寝室や水廻りなどのプライベートなスペースとし、付加断熱を施し外皮性能を高めている。下屋がかかる平屋の部分は食堂などのパブリックなスペースとし、充填断熱のみとなっている。

意匠的にも温熱的にも強固な2階建て部分の躯体と、外部と緩やかにつながる下屋部分。さらに外の広間となるテラスを設けて性能一辺倒ではなく、周辺環境とつながりながら生活が営まれるよう配慮した。

堀部氏の説明で、一人でも寂しさを感じず、4人でも快適に暮らせる最適規模の住宅、ディテールを考へており数年の構想の集大成として設計されているとのこと。

□「各所の工夫」

- ・吹き抜け頂部は越屋根部分となり、電動の開口部を開けると煙突効果によって下屋部分の開口部から十分な風が抜

け夏も快適に過ごすことができる。

- ・キッチンには華美な作りにはせず、これからのキッチンは豪華さではなく場所であり、近接するテラスの配置も含めた生活動線にあることの贅沢さを念頭に置いた提案となっている。

- ・北側のテラスには屋根をかけ、夏の日差しを遮り雨をしのげる戸外の空間の贅沢さを表現した。南にテラスを設けると照り返しから暑くなるのでその点でも屋根のあるテラスは有効。リビングからもアクセスでき稼働率の高いプランニングが実現できた。

断熱気密をしっかりとやると、窓を開けず、外との関わりが希薄になってしまうので外気に触れ合うテラスを設けることは重要と語ってくれた。

下屋部分の天井高は2000mm。立っていると圧迫感を感じる高さではあるが、日常座って過ごすことが多いので最適な高さとなっている。寝室は2100mmと法規ギリギリの高さとしているが吹き抜けとの関係性でここも低くは感じない。

■里山の平屋暮らし

解説：設計者 伊礼智氏

□設計主旨

地元工務店の柴木材店のモデルハウスとして設計に携わった。要望は2点。

1点は、この地域で需要が高い平屋とすること。

2点目は、東大の前先生が開発したOMソーラーの最新設備「OMX」を採用すること。

OMXは開発に携わった前先生からヒートポンプ1台ですべてを賄う最高の設備であるとお墨付きをいただいている。OMXの採用によりリアルZEHをクリアしており、UA値0.34G2レベルの断熱性能となっている。最新の設備を取り入れているが、ごく普通ののどかな建物としての設計を心がけた。

里山と平屋は相性がよく、高齢者に適したプランは子育て世代にも向いていることがわかり、多世代に適したプランができたこと自負している。里山の風景を大事にするため、風景を取り入れたプラン、風景に溶け込むような設計を心がけた。断熱・気密性を高めることで開口部の位置や大きさに自由度が生まれ、北側に広がる風景を取り込む大きな開口部を設けた。

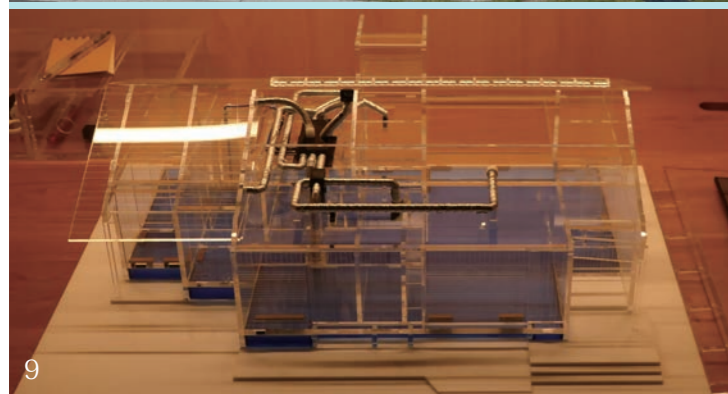
道路をコモンと考えてあえてコモンのない区画を選び、道路との関係性を重視した。南北の軸線で町と繋がりながら風景にもつながり、東西軸は生活動線が流れるようにつながる、廊下のための廊下は避けて計画している。

□「各所の工夫」

外部と繋がり、外部を愉しむ仕掛けとして、南側の開口部には木製一枚引戸、アイランドプロファイル社のプロファイルウインドー、窓はリクシルのサーモスXのトリプルガラスを額縁のように設えるために納まりを工夫している。掃き出し窓からテラスへと通じ、町とのつながりを生む。北側にも縁側を設け、屋根の上にはロフトからアクセスする物見台があり、美しい稜線の宝篋山（ほうきょうさん）を望むことができる。拡張された内部空間が住まいと台地を繋いでいる。

□こぼれ話

ロケーションの良さからどうしても物見台を設けたかった。ロフトから屋根に出る部分が1.4mを越えてしまいロフトと見なせずに2階建ての申請を行っている。竣工間際まで筑波山が望めると勘違いをしていたが宝篋山だった。



7. 棧橋をイメージしたアプローチ部分
8. 開放的な南北軸線の開口部
9. 暖房、冷房、給湯、熱交換換気を1台で賄う「OMX」の模型
10. リビングとテラスを繋ぐ大開口
11. 各室から縁側を通して外に出る

■素足で暮らす住宅～MUKU

□設計主旨

「いばらきの家～つくばスタイル」のモデルである、建坪15坪、延床25坪の上質でシンプルなスタンダードハウス。1階ワンフロアで生活ができ、2階は最低限の部屋のみとなっている。子供部屋が必要になったときのための梁と窓が設けられている。



県外の工務店が販売するときの商標として「MUKU」の登録を行っている。

□3つの基本

①無垢の木を活かす

創業260年を超える茨城県南木造住宅センターは材木店を母体とすることから、県北の八溝山系の良材を好条件で供給できるネットワークと木を活かすデザイン力が強み。

②高耐久+スケルトン・インフィル

構造設計は東京都市大の大橋好光先生の指導を受け、外周壁が構造を負担する設計であることから、どこの壁を取り払っても問題はない。建物の寿命のみではなく、愛され続けるように間取りの可変性を持たせることができた。

③パッシブデザイン

H18年から、外とつながるデザインを目指して小玉先生に指導を依頼。当時は魔法瓶のように内と外を遮断して24時間365日快適に暮らす建物がもてはやされた時期。いばらきの家がそれであるのか、外とつながって豊かに暮らすことをコンセプトに検討を始めた。このモデルハウスは小玉先生の設計を標準化したもので、風の流れを重視する横長の窓が特徴となっている。



□いばらきの家

協同組合であった時代から茨城のゆたかな気候風土と地産の無垢材を活かした住宅を『いばらきの家』と呼んでいる。茨城県の指導を受けながら、30年以上にわたって開発・供給してきた地域適合型木造住宅。明快な空間構成・可変性・地域材を使用した骨太の構造を軸に、お客様の声に応え進化し続けている。



「素足で暮らす住宅～MUKU」外観



通風に配慮した横長の開口部が並ぶ外観

■基本データ / 里山住宅博 in つくば 2019

主催：茨城県産材普及促進協議会

事業主：株式会社サンヨーホーム

株式会社茨城県南木造住宅センター

出展社：21社、23棟

●つくばベーシックハウス

敷地面積	209.10㎡
建築面積	69.45㎡
延床面積	95.49㎡
1階	65.22㎡
2階	30.27㎡

●素足で暮らす住宅～MUKU

敷地面積	220.06㎡
建築面積	49.12㎡
延床面積	80.59㎡
1階	48.03㎡
2階	32.56㎡

●里山の平屋暮らし

敷地面積	320.99㎡
建築面積	109.43㎡
延床面積	120.43㎡
1階	102.26㎡
2階	18.17㎡



里山住宅博
in TSUKUBA 2019